

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスももたろう				公表日	令和8年3月6日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		8	バリアフリーではないという点で否の結果。木造家屋の借家にベランダ等の空間を増やし十分なスペースを確保している。	空間を逆に狭めたり等の注意喚起をしている。衝動的な行動や物の扱いが乱暴であることの自覚を促す支援を継続していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		ミーティングの中で周知徹底を図っている。	実際に当所で使いやすいフレームワークを作成してさまざまな場面で活かしていこうと考える。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	保護者、相談員、学校、自治体関係者などアポなしの見学はいつでも対応可能であり、頂いた意見は真摯に受け止める。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		8	児童それぞれの観察は、密にしており、気づきはスタッフ間で報告し各児童の成長含め感動も同じように共有するようにしている。	行動観察の聞き取りなど、グラフや表で表せるよう進化していきたい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	支援開始前の打合せは概ね行っている。前日には確認している。チームの連携は良好である。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	支援終了後は送迎、片づけ等あり当日支援の振り替えは行っていないが、業務日誌等に必要なおことは漏らさず記録している。	気づいたことは、皆で必ず確認している、今の状態を保っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	学校と年間計画、行事予定等の交換はしていない。情報共有を要する児童に於いてはこの限りではない。	※トラブルが起きた時は積極的な係わりを持つようになっている。関係機関との連携も取り合い早期に解決に向かう方策の現状の維持。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	担当の相談支援員からの丁寧な申し送りを聞いている。必要な場合は、前利用施設に確認することもある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	移行した先からの求めに応じている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	近隣の同業事業所との交流はないが、遠方に懇意にしている老舗の事業所を頼っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	職員研修等に案内の連絡はしている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	小さなことでも話して頂けるように、信頼関係を大切にしている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	必要なことは、都度つど発信している。	定期的に発行していた通信を再開していく考えである。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	大きな行事等を実施していない。四方のお隣さんとは良い関係である。	コロナ以前は年一で開催していたコンサートに地域の方に案内チラシを配布して、来所して頂いた。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	現在、該当児童なし	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	そもそも身体拘束は行わない。	必要な事案が起きたら、慎重かつ丁寧に事を進めていきたい。